

史学委員会 歴史認識・歴史教育に関する分科会（第24期・第3回）  
議事要旨

日時 平成30年9月3日（日） 13時30分～15時

会場 日本学術会議 6-A（1）会議室

出席者：久留島典子（委員長）、栗田禎子、佐野正博、若尾政希、井野瀬久美恵、長志珠絵、大日方純夫、君島和彦、久保亨、坂井俊樹、鈴木茂、高橋裕子、中村元哉、姫岡とし子、平野千果子、三谷博、桃木至朗、柳原敏昭（以上18名）

議題

1、前回議事要旨の確認

平成30年7月22日（日）開催の第2回分科会の議事要旨を確認した。

2、報告 吉田典裕氏（日本出版労働組合連合会教科書対策部事務局長）

出版労連の吉田典裕氏を招いて、教科書制度の現状について、教科書編集者としての経験を踏まえた批判的な観点からの報告を受けた。「日本の教科書制度の概要と特質——検定・採択・供給・価格」と題した報告では、まず教科書制度の全体像が検定・採択・供給・価格という4つの観点から資料を交えて詳細に解説された。検定・採択はもちろん重要だが、供給や価格についてはあまり知られておらず、また価格は不当に安いことが指摘された。後半ではさらに日本の制度の特殊性と問題点が個々に取り上げられた。現行の検定制度に関しては、政府の正規職員である教科書調査官が検定を行うなど、「権力性」の存在が大きな問題であり、検定から権力性をどう排除するかが今後の重要な課題であることが指摘された。また供給が書店など関係業者の「好意」に依存していること、さらには価格を安く設定することで発行者が減少し、教科書の多様性が失われてきたこと、それが「準国定」とも言える教科書作成につながっている状況なども紹介された。日本の現行の検定制度には抜本的改革が必要であること、また研究者がもっと教科書制度の研究に取り組む必要があることも指摘された。報告後、質疑応答・討論が行われた。

3、その他

次回分科会では教科書調査官（現役あるいは経験者）を招聘して勉強会を行なう方針となり平成31年2～3月ごろに開催する予定となった。

以上（担当：平野）